

博物館 Dictionary No.167

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

—新収品展に合わせて—



めいこう きひ すひょうぶ
明皇・貴妃図屏風
狩野山雪筆
京都国立博物館蔵

宮殿の庭園の一郭^{いっかく}。左上、ごうごうと落ちる滝の水は、右の方の池につながっているようです。水に面した場所に集う人々、華やかに着飾った女性たちに囲まれる^{こま}高貴な男性の姿。中国・唐王朝の第6代皇帝玄宗^{げんそう}(685~762・在位712~756)で、明皇とも呼ばれました。豹皮^{ひょう}の敷物^{しきもの}に座り横笛を手にとっています。玄宗皇帝の視線の先で舞う女性が楊貴妃^{ようきひ}。今日、世界三大美女にも数えられたりする^{ぜっせい}絶世の美女です。貴妃の後には楽器を奏^{かな}でる女性たち。どんな楽器ですか？ 琴・琵琶・笙・縦笛・横笛、弦楽器と管楽器ですね。これに対し、玄宗の後に立ち並ぶ女性たちは、お香の道具を乗せたお盆などを持っています。女性たちの華やかな服装はさまざま、ひとつとして同じものはありません。

玄宗皇帝と楊貴妃のラブストーリーは、約50年後の806年に白居易^{はくきよい}(白楽天)が作った長編漢詩^{かんし}の名作『長恨歌』^{ちやうこんか}によってよく知られるようになり、平安時代以降の日本の文学にも大きな影響を与えました。七言の句を120句連ねた「古詩」というスタイルの詩で、あらすじは次のようなものです。玄宗は楊貴妃への愛情にのめりこんで、妃の縁者^{えんじゃ}を次々と高位に採用^{こうい}します。その有様^{さいよう}に反乱^{ありさま}が起き、玄宗は宮殿から逃げ出します。しかし貴妃をよく思わない兵は動かず、それをなだめるため貴妃の殺害を許してしまいます。反乱が治まると玄宗は都に戻りましたが、貴妃のことが思い出されるばかり。道士^{どうし}が仙術^{せんじゆつ}を使って貴妃の魂^{たま}を捜し求め、天界で見つけ出します。貴妃は道士に、玄宗との思い出の品と言葉をこつづけます。それは永遠の愛を誓い合った思い出の言葉だった、という悲恋^{ひれん}の物語で、現実と天の世界を行き来するなか、ふたりの愛が哀しくも美しく歌い上げられます。

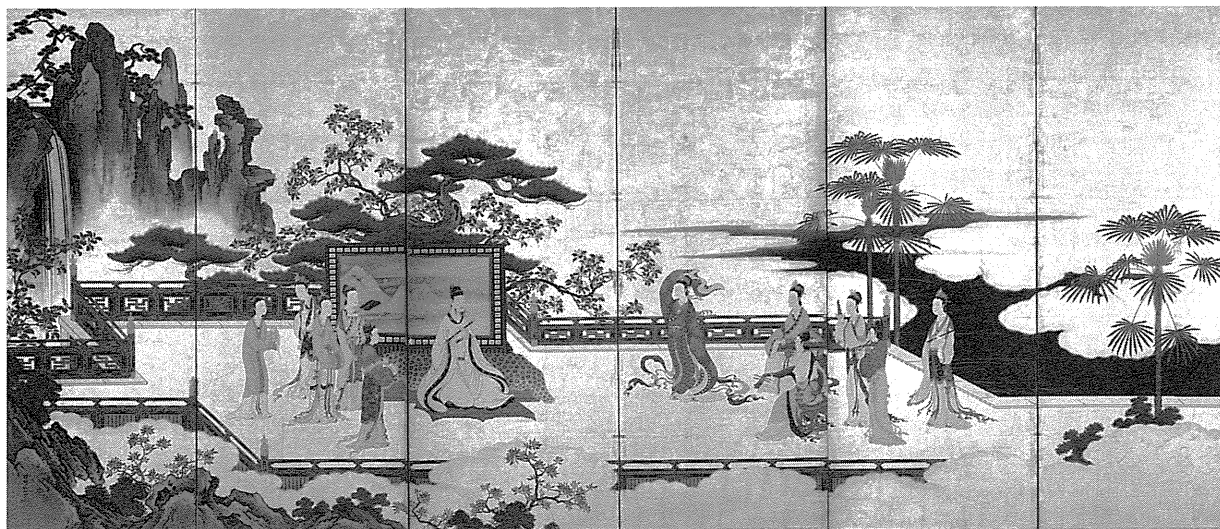


写真1 明皇・貴妃図屏風 狩野山雪筆 6曲1隻 京都国立博物館蔵

この屏風も『長恨歌』に基づくもので、描かれた場面は、ふたりがまだ幸せに暮らしていたときの一場面なのですが、詩では後半部、楊貴妃が亡くなったあと、道士が天界の楊貴妃と語り合う部分に対応しています。「風吹仙袂飄飄拳かぜはせんかいをふきてひょうぼうとしてあり(風が吹いて仙女の袂はひらひらと舞い上がり)、猶似霓裳羽衣舞なおいししょうういのまいにたり げいしやう い(霓裳羽衣の舞を舞っているようだった)、玉容寂寞淚闌干ぎよくようせきぼくとしてらんかんになみだすれば(玉のような美しい顔は寂しげで、涙がぼろぼろとこぼれる)、梨花一枝春帶雨りかいっしはるあめをおお(梨花の花が一枝、雨に濡れたような風情である)」と始まる部分で、画面中央、玄宗皇帝の背後、水墨の山水画が描かれた衝立の奥に、梨花の花が咲き誇る様子が描かれています。

ところで、左下に「狩野氏山雪」のサインがあり、「山雪」の印が捺されています。この屏風を描いた画家のサインです。狩野山雪かのうさんせつ(1590～1651)は、江戸初期に京都で活躍した重要な画家です。義理の父が狩野山楽さんらく。江戸時代に入り、徳川幕府の時代になると、政治の中心は江戸に移り、狩野派の拠点も江戸へと移りますが、京都に残って、濃厚で華麗な狩野派の画風がふうを守っていった一派がいました。それが狩野山楽・山雪にはじまる一派です。江戸に移った「江戸狩野」に対して「京狩野」と呼ばれ、幕末まで続きました。なかでも狩野山雪は、たいへん個性的な画を描いた画家として注目されています。

たとえば、玄宗の背後の松の枝ぶりに注目しましょう。その姿は、垂直・水平に整えられています。画面左上の細長く縦に伸びる岩、それから右の方の棕櫚しゅろの樹にも、垂直線が繰り返され、ほっそりとした人物たちの垂直線とシンクロしていますね。人物たちを取り囲む欄干らんかんや衝立などは、垂直と水平の線で構成されています。つまり、構図は計算つくされ、垂直・水平をことさら強調することによって、とても整然とした印象が得られるようになっているのです。これが、山雪の画の特徴であり、魅力なのです。人物の吊り上った切れ長の眼たんせい、端正な顔立ちなども、そうした造形感覚からきているのですが、人物はとても細かく丁寧ていねいに描かれています。じっくり味わってみましょう。

(美術室 山下善也)



写真2 明皇・貴妃図屏風 狩野山雪筆 6曲1隻 部分「楽人」 京都国立博物館蔵